

空衛俳壇

空衛俳壇（第八七回） 8・5・20

「葉桜」「草笛」「山」

福 神 規 子 選

葉桜や眠る赤子は母の膝

大山 みち子

ばらばらと下校の子供青田風

（愛知）

嚙み合はぬ夫との会話山笑ふ

大空に枝を広げて花檣

花海桐波は静かに船を打つ

葉桜の木蔭に子等のおままごと

河内 環

草笛や朝の散歩の道すがら

（東京）

何時も聴く草笛誰が吹くのやら

小さき手で豆むいてくれ豆御飯

豆めしの出来上らんとする匂ひ

葉桜や風のおつかる一里塚

柴田 香

葉桜や水辺眩しき尼の寺

（奈良）

葉桜や小雨に烟る記紀の径

草笛やいつまでも夢追ひかけて

撫で肩のお山遙かに夏霞

軽暖や熊野古道の杉並木

増村 ひさし

葉桜のはざ間に見ゆる那智の滝

（神奈川）

葉桜や古利の多き高野山

草笛や遠きふる里少年期

夕焼に向かひ草笛吹くことも

草笛やかたて詩集の千曲川

麻井 ゆういち

荷を肩に山滴りし登山口

（東京）

這松を越せば稜線濃霧の中

残雪の谷を見下ろし山頂へ

不揃ひの草笛響く土手の上

二木 辰彦

移りゆく雲海の上山光る

（東京）

夏山に明りの列が繋がりに

山上に見下す里の青田かな

草笛や歌の上手な女の子

木山 仙人掌

筑波嶺は囀歌の山や滴りぬ

（守谷）

関東平野に風の涉れる芒種かな

思ひ出の野や草笛を吹きし人

国分 洋子

車窓より父の登りし夏の山

（所沢）

下山して山芍薬に迎へらる

選者吟

福 神 規 子

八海山の右肩見ゆる鮎を釣る

老鷺に止む気配なき山の雨

灯取虫山荘の闇濃かりけり

葉桜や街並古き紺屋町

草笛や亡父の青春聞かざりし

=空衛俳壇 応募方法=

～初心者歓迎

○応募方法

A4版用紙を横にして、兼題3題および

当季雑詠を含み10句以内を記載し、封筒にて郵送。

○2026年 9月兼題「蟪蛄・子規忌・青」

○締 切 当月20日までに必着。

○送句先 〒104-0041

東京都中央区新富2-2-7 空衛会館

（一社）日本空調衛生工事業協会 空衛俳壇係